

第 1 回 縄文楽検定 解答集

- 1 正解は「c」です。(テキスト 5 頁)
a は c と同じ長岡市馬高遺跡から出土した火焰型土器で、鶏頭間の尾部が右上がりか左あがりかで区別できます。b は十日町市野首遺跡、d は津南町道尻手遺跡の王冠型に類似した土器です。
- 2 正解は「b」です。(テキスト 11 頁)
a は長岡市岩野原遺跡出土の三十稲場式土器(縄文時代後期)、c は長岡市山下遺跡出土の火焰型土器、d は十日町市笹山遺跡出土の深鉢土器です。
- 3 正解は「b」です。(火焰土器の国 8 頁)
放射性炭素 (^{14}C) 年代測定の AMS 法による分析に基づいた年代値です(問 28 参照)。
- 4 正解は「a」です。(テキスト 1・3 頁)
縄文時代は縄文時代前期が一番暖かく、その後だんだんと寒くなっていったと考えられています。温暖化で海水面が高くなった「縄文海進」の時期にあたります。
- 5 正解は「c」です。(テキスト 2 頁)
この地域の遺跡数は、火炎土器様式が成立した縄文時代中期前葉から中葉にかけて、劇的に増加しました。
- 6 正解は「b」です。(テキスト 5 頁)
a は近藤勘治郎さん(近藤篤三郎さんの父)、c は近藤勘太郎さん(近藤篤三郎さんの祖父)、d は中村孝三郎さん(長岡市立科学博物館考古学研究室の初代学芸員)です。
- 7 正解は「d」です。(テキスト 10 頁など ※テキストでは鶏頭冠突起)
鶏のトサカに似ていることから、この名称がつけられました。
- 8 正解は「b」です。(テキスト 10 頁、火焰土器の国 25 頁)
a・c・d は、火焰型土器や王冠型土器の要所につけられる特徴的な突起です
- 9 正解は「b」です。(テキスト 3・11 頁)
遺跡によって差はあるようですが、全体的には少ない状況です。
- 10 正解は「c」です。(テキスト 13 頁、火焰土器の国 57 頁)
テキスト 12 頁に掲載した第 5 図を覚えていて「100 遺跡 (b)」と答えた人もいたかもしれませんが、正解は次の頁にありましたね。
- 11 正解は「a」です。(火焰土器の国 116 頁)
現在の定説では、「水田をつくり、米づくりにはげんでいた (a)」は弥生時代に入ってからとされています。
- 12 正解は「b」です。
縄文時代に文字はありませんでした。

- 13 正解は「b」です。(テキスト 17 頁)
縄文時代にはロクロ (a) がなく、また、窯ではなく野焼きされていたと考えられています。釉薬がかかった縄文土器は発見されていません。
- 14 正解は「b」です。(テキスト 16 頁)
信濃川流域の縄文土器には、時期によって特徴的に認められる手法です。
- 15 正解は「d」です。(テキスト 7 頁)
やや抽象化されていますが、鶏頭冠突起と鋸歯状突起がはっきりと描かれています。テキスト5 頁に掲載されている火焰土器の写真と見比べてみると一目瞭然ですね。
- 16 正解は「c」です。(テキスト 23 頁)
三脚石器は魚沼地方の集落遺跡から多く出土する石器で、その使用方法については、実用、祭祀用など諸説があります。
- 17 正解は「b」です。(テキスト 23～24 頁)
男根を模した石棒とともに、縄文時代の信仰に関わる代表的な遺物です。
- 18 正解は「d」です。(テキスト 23～24 頁)
妊娠した女性を表現したとも考えられています。
- 19 正解は「c」です。(火焰土器の国 20 頁)
信濃川火焰街道連携協議会顧問である小林達雄氏 (県立歴史博物館名誉館長、現國學院大學大学院客員教授) が提唱者です。
- 20 正解は「d」です。(テキスト 36 頁)
テキストには、信濃川火焰街道連携協議会を構成する市町の観光案内の頁があり、その部分からの出題で、観光のPRも兼ねています。ご理解ください。
- 21 正解は「b」です。(テキスト 25 頁)
十日町市・津南町周辺の土器は、長岡周辺の土器よりも大形の傾向があります。ちなみに一番小さい火焰型土器は、長岡市石倉遺跡から出土しています。高さ約 15.5 cm です。
- 22 正解は「c」です。(テキスト 25 頁)
一番大きい王冠型土器も道尻手遺跡から出土しています。
- 23 正解は「c」です。(火焰土器の国 59 頁)
大小さまざまなサイズがありますが、平均するとこのくらいになるようです。
- 24 正解は「c」です。(テキスト 22 頁)
「石錐 (a)」は皮革などに穴をあける道具、「石匙 (b)」はナイフのように物を切る道具です。また「石鋸 (d)」は弥生時代の玉作りに使う道具と考えられています。
- 25 正解は「b」です。(テキスト 22 頁)
硬質で磨くと光沢が生ずる石材です。
- 26 正解は「c」です。(テキスト 22 頁)

「和田峠 (a)」は黒曜石の産地、「最上川流域 (d)」は頁岩の産地として有名です。また、「姫川流域 (c)」はヒスイの産地としても有名です。

27 正解は「c」です。(テキスト 28 頁)

テキストには、信濃川火焰街道連携協議会を構成する市町の観光案内の頁があり、その部分からの出題で、観光のPRも兼ねています。ご理解ください。

28 正解は「c」です。(テキスト 19 頁、火焰土器の国 87 頁)

ちなみにAMSは、**Accelerator Mass Spectrometry** の略です。

29 正解は「b」です。(テキスト 19 頁、火焰土器の国 87 頁)

^{13}C は炭素安定同位体、 ^{14}N と ^{15}N は窒素安定同位体です。 ^{14}N はほとんど陸上に分布し、その反対に ^{15}N は、そのほとんどが海にあるといわれています。

30 正解は「c」です。(テキスト 19 頁、火焰土器の国 88 頁)

放射性炭素 (^{14}C) 年代測定のAMS法による分析に基づいた年代値です

31 正解は「c」です。(火焰土器の国 42~49 頁)

「中国で万里の長城がつけられはじめた (c)」のは、秦の始皇帝の時代、紀元前 215 年ごろです。日本では弥生時代にあたります。

32 正解は「a」です。(テキスト 7 頁)

bは東京都世田谷区のお寺で、招き猫で有名。cは小千谷市にある真言宗智山派の古刹で、慶応4年(1868年)に長岡藩の河井継之助と新政府軍の岩村軍監と会見した場所です。dは神奈川県鎌倉市にある真言宗大覚寺派の古刹で、源義経ゆかりの『腰越状』で有名です。

33 正解は「c」です。(テキスト 16 頁)

粘土と焼き方にその要因がありそうです。

34 正解は「b」です。(テキスト 31 頁)

小瀬ヶ沢洞窟と室谷洞窟は、阿賀町(旧東蒲原郡上川村)にある遺跡です。長岡市立科学博物館によって昭和30年代によって発掘されました。縄文時代草創期の代表的な資料です。

35 正解は「a」です。(テキスト 29 頁)

笹山遺跡出土品は新潟県初の国宝です。本年で指定10周年を迎えます。また、馬高遺跡と堂平遺跡から出土した火焰型土器は国の重要文化財に指定されています。

36 正解は「d」です。(テキスト 38 頁)

テキストには、信濃川火焰街道連携協議会を構成する市町の観光案内の頁があり、その部分からの出題で、観光のPRも兼ねています。ご理解ください。

37 正解は「b」です。(テキスト 23 頁など)

aの滑車型耳飾や、cの三角埴土製品も火炎土器文化を彩る特徴的な遺物です。(テキスト 3~4 頁)

38 正解は「a」です。(テキスト 8 頁)

津南町の沖ノ原遺跡は縄文時代中期に営まれた遺跡で、国の史跡に指定されています。そこから出土した火焰型土器の一部は県指定文化財となっています。

- 39 正解は「c」です。(テキスト 4頁)
人類の歴史を通して、高い山の山頂(a)や(d)に集落をつくるという事例はごくわずかです。農耕社会などでは大きな川沿いの低地(b)に集落をつくることがあります。
- 40 正解は「c」です(テキスト 1頁)。
問3との関連を考えると、より正しくは「1万2千年間」となります。ご容赦ください。
- 41 正解は「b」です。(テキスト 9頁)
基本的なルールです。なお、会津地方の火炎系土器には3単位になるものがみられます。
- 42 正解は「b」です。(火焰土器の国 71～76頁)
c字を組み合わせ、s字を作ります。
- 43 正解は「c」です。(火焰土器の国 53頁)
現在の集計による傾向です。今後発見される資料で将来は変わるかも？
- 44 正解は「d」です。(テキスト 9頁)
ごく少数ですが、上部に火焰型土器の文様、下部に縄文を組み合わせる例もあります。
- 45 正解は「d」です。(テキスト 13～14頁、火焰土器の国 65頁など)
火焰型土器の多くは、信濃川中・上流域を中心とする新潟県の範囲から発見されています。
- 46 正解は「b」です。(火焰土器の国 66頁)
胎土や色調は信濃川流域でつくられた土器とよく似ています。
- 47 正解は「d」です。(テキスト 4頁)
多くの場合、円形や馬蹄形状に展開しています。
- 48 正解は「a」です。(火焰土器の国 104頁)
信濃川流域では、特に卵形の住居が特徴的です。
- 49 正解は「a」です。(火焰土器の国 105頁)
床の中央から、少しだけずれているのが普通です。地床炉や石組炉などの種類があります。
- 50 この問題は、あなたが「これ」と思うことを選ぶ、または記入するものなので、すべてが正解です。
今回は「a」を選んだ人が多かったようです。

※解説文中の「テキスト」「火焰土器の国」は、下記の文献を示しています。

○縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』(信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行)

信濃川火焰街道連携協議会ホームページにPDF版を掲載 (<http://www.kaen-kaido.com>)。

○新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』(新潟日報事業社、平成21年4月刊行、定価1,680円・税込)。